

私には夢がある。それは旅行会社に勤めてソウル在住のツアーデスクになる事だ。日本から韓国を訪れる人達に、私の大好きな韓国の魅力を伝え、思い出のたくさん詰まった旅をして欲しいと思っている。私がそう思ったきっかけは、昨年秋に母と2人で初めてソウルを訪れた時に、目的地がわからず困っていた私達に沢山の韓国人達が親切に接してくれた事—そしてその思い出がキラキラと今でも私の中に残っているからだ。

時は9月、まだ残暑の厳しいソウルの街で私は大好きなアイドルグループの事務所を見たい一心で、SNSの情報片手に歩いていった。しかしそこは住宅地で、看板も目印もなく同じ坂道を行ったり来たり途方に暮れていた。通り沿いに小さなコンビニを見つけて店に入ると一見気難しそうなご主人が。私は片言のハングルで勇気を振り絞って「すみません。この辺りにある事務所を探しているのですが」と尋ねた。「何の事務所？」「アイ

ドルグループの事務所です」「ちょっと携帯
みせてもらっていい？」と私の携帯を見なが
ら自分の携帯で色々調べだしたご主人。何と
事務所に電話をかけて色々聞いてくれている。
3分ほどの電話の後「最近移転したみたいだ
ね。新住所を聞いたからこれを見て行ってご
らん」と紙に書いて手渡してくれた。隣では
奥さんもニコニコして見守ってくれていた。
その紙の住所を頼りに、タクシーで無事に事
務所にたどりつけたのだった。

そして夕方になり忠武路3街駅でホテルが
見つからず、また右往左往していた私達。オ
フィスビルの前で背広姿の小太りなおじさん
に「Holiday Inn Expressはどこですか？」と尋ねると
他の方に聞いてくれて、3つめの通りを右と
教えてくれた。「地図で見るとそんなに離れ
てないのだけどなあ」と首をかしげながら歩
き出してしばらくすると、後ろから「Excuse me!」
と叫ぶ声が。先程のおじさんが、汗をかいて
走って追いかけてきてくれて「さっきの方が

教えてくれたのは Holiday Inn の方でしたよ。Express
はすぐ近くです。一緒に行きましょう」と言
ってくれた。他にもチキンのお店でハングル
上手だね。留学生？とほめてくれた店員さん、
ドーナツ屋で、日本の事教えてと話しかけて
くれた女性、私にとってますます韓国が大好
きになる、感謝と感動で胸がいっぱいの旅だ
った。

私は、その国の印象はその国の人の持つ優
しさで作られると思う。日本と韓国の未来を
担う若い世代がお互いに、偏見や先入観抜き
で、一人ひとりの草の根の視点で困っている
人に優しい気持ちで接してゆけば絶対にお互
いわかりあえる。その若い力が、韓日関係を
変えていく大きな力になると信じている。

そうすれば、韓国と日本は文化・風習・考
え方など沢山の似ているところを見つけられ
るはずだ。この夏も韓国を旅する私、またど
んな新しい出会いが待っているのかなと胸を
ドキドキさせているこの頃である。(1199字)